



2025年9月

葉画家・群馬直美のヤマトビオトープ園の葉っぱたち Vol.80

— 絵と文 群馬直美 —

足元に広がる未知なる世界《シダ》

ヤマトビオトープ園のせせらぎの辺りでシダの葉と出会った。
葉先がほんのり赤みを帯びて、イカしている。
葉っぱアトリエの寒暖計が連日40度を越える中、シダと向き合う。
シダの葉は、細かく分かれて羽のように見える構造をしているので、
羽状複葉(うじょうふくよう)というのだそうだ。
せせらぎの辺りのシダは、分かれた小さな葉がさらに細かく分かれ、
さらにまたその形が微細なギザギザとなって、暑さで朦朧とする私に襲いかかる。
葉を裏返すと、美しい葉脈の流れが「描いてほしいの～」と歌いかけてくる。
素直な私……いや、暑さで何も考えられなくなった私は、
その歌声に従い、微細な描き込み作業に没入。
右側に置いたスポットクーラーの冷風が「がんばれ!」と励ます。
左側に置いた扇風機が室内の熱風を私に届けながら、
多分「がんばれ!」と励ましてくれているはず。
冷風も熱風も、命を与えられた友としなければ、やってられないこの暑さ。
4億1千年前からこの地球上に生息しているシダ。
この繊細な葉のどこに、過酷な自然環境を乗り越えるパワーが宿っているのだろう?
シダについて調べてみると――。
シダは孢子で増えるので花や種子をつけず、
光合成を行う栄養葉と孢子をつくる孢子葉の2種類があり、
種によって栄養葉と孢子葉の形が異なるものもあると知り、驚く。
その上、地面に落ちた孢子が「配偶体」という1センチほどのハート形をしたシダ植物となり、
1万2000種あるシダ植物の「配偶体」は、
ほぼ同じような形と大きさをしていて見分けがつかないという……。
身近なシダ植物の奥深き世界に触れる1作となった。

《表紙の絵》シダ

「緑色の大きな鳥の羽!」

・ヤマトビオトープ園にて2025.5.22採集
(作品の完成日は、2025年7月27日)

・紙(ファブリアーノ エキストラホワイト極細目)/テンペラ
size:335mm×245mm ©Naomi Gumma

群馬直美 GUMMA NAOMI プロフィール

高崎市生まれ。1982年、東京造形大学絵画科卒業。在学中に新緑の美しさ、その生命力に深く癒された経験から、“葉っぱ”をテーマとする創作活動に入る。「葉っぱの精神—この世の中の一つ一つのものは全て同じ価値があり光り輝く存在である」に則り、1991年テンペラで克明に描く現在の作風に至る。著書に『言の葉 葉っぱ暦』『群馬直美の木の葉と木の実の美術館』『葉っぱ描命』他。東京都立川市在住。 <https://www.wood.jp/konoha/>